

平成22年3月31日現在

研究種目：特定領域研究

研究期間：2005～2009

課題番号：17083018

研究課題名（和文） 海港をとりまく地域社会—「地域」からの日中交流史—

研究課題名（英文） Regional Society Around Maritime Region—China-Japan Exchange from the Perspective of “Region”

研究代表者

曾田 三郎 (SODA SABURO)

広島大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：40106779

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、国家間の次元ではなく、よりミクロな地域に視点を置き、東アジア海域における交流の歴史を、多角的に分析することにある。これまで、海は国境という観点からとらえられることが多かった。我々は、多くの地域を相互につなげる交流の場という海の役割に注目した。具体的には、浙江省の寧波と江蘇省や福建省の海港地域に着目して、文化的・経済的交流の諸相を分析し、東アジア海域における日中交流の歴史的展開を解明した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of the present study is to put the aspect on not the dimension between nations but a more micro region, and to analyze the history of the exchange in the east Asian sea area multilaterally. Up to now, the sea has been often caught from the viewpoint of border. We paid attention to the role of the sea of place of the exchange that connected a lot of regions mutually. Concretely, it paid attention to Ningbo in Zhejiang and the regional society around maritime region in Jiangsu and Fujian, some aspects of a cultural, economical exchange were analyzed, and historical development of the exchange was clarified in daytime in the east Asian sea area.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	7,900,000	0	7,900,000
2006年度	8,400,000	0	8,400,000
2007年度	8,500,000	0	8,500,000
2008年度	8,500,000	0	8,500,000
2009年度	6,900,000	0	6,900,000
総計	40,200,000	0	40,200,000

研究分野：中国近代史

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：海港、地域、環境、寧波商人、日中交流、文化伝播

1. 研究開始当初の背景

(1)当初の研究代表者である岡元司は、中国浙東の温州地域の宋代永嘉学派をとりあげ、その学派に属する士大夫相互間の人間関係や

婚姻関係の解明を進め、とくに科挙受験をめぐる士大夫相互の関係を明らかにするとともに、永嘉学派の活力の源泉となった南宋期の温州の経済状況や自然環境にまで視野を

広げて多角的な分析を行ってきた。こうした基礎的作業を踏まえたうえで、宋代浙東沿岸部を含むさまざまな地域・時代の研究者を結集し、科学研究費補助金（基盤研究(B)）を得てさらに研究を発展させた。この研究グループでは、当初よりシンポジウムの主催や国際学会への参加を計画した。2002年度から翌年度にかけて、中国各地での史料調査や史跡巡検を行い、その成果を踏まえて、2003年度には宋代史研究会・明清史夏合宿の合同研究会において、シンポジウムを開催した。また同年度には、シンガポールで開催された国際学会で、翌年度にはモスクワで開催された国際学会で研究成果の発表を行った。更に2004年度には、研究成果の総括もかねて、国内でシンポジウムを開催した。

(2)当初から研究分担者として参加した松浦章は、清代を中心に、日中の海域交流の歴史に関する優れた研究成果を発表してきた。また曾田三郎は、新たな視点に立った近代の日中交流史に関する研究を、共同で進めてきた。岸田裕之は、日本の側から、地域の視座に立った東アジア交流史に関する理論的展望を示してきた。藤田明良と太田出は、フィールドワークに関して実績を有しており、前者は日本・韓国・中国で媽祖廟に関する現地調査を進めてきた。太田は福建省を対象とし、民間信仰を中心に現地調査に優れた経験を有している。

2. 研究の目的

(1)本研究班では、中国・日本それぞれにおいて、寺院・廟・墓・碑などの歴史的遺産に関する現地調査を行い、また現地でしか入手・閲覧できない史料の解析を進め、日中交流の窓口となった港市を、都市としての「点」ではなく、その周囲も含めた「面」の地域社会としてとらえ、徹底して「地域」の視座から日中交流の歴史的意味を考察する。中国については、宋代から近代に至るまでの都市寧波およびその周囲の「面」としての浙江省、さらに隣接する福建省・上海を取り上げ、物流・海商・漁民・農村・信仰・風水・習俗など、民衆の心性にいたるまでの幅広い視点から分析を行い、経済的・文化的に活力のある動きを示した地域としての浙江の歴史的特色を明確にし、その地域社会の構造や人々の心性が、社会の変動や対外的な交流に対して柔軟な対応を可能にする条件を備えていたことを明らかにする。

(2)日本については、地域的な独自性が特に強かった中世・戦国時代を中心に南九州・長崎などを取り上げ、国境をこえて港市を結ぶ経済的・文化的なネットワークの実態を把握するとともに、日本のなかでは辺境に位置する

地域が、直接に中国と結びつくことによって、国際性豊かな地域となっていたことを明らかにする。こうした日中双方の「地域」の分析を通して、国民国家を所与の前提としない多元的な東アジア史像を構築する。

3. 研究の方法

(1)本研究班では、「通時代的」な考察を目指し、寧波およびその周辺の地域を、宋代から近代までの非常に長い期間を通じて分析することを特色としている。「地域史」は、断代史的分析や過度の専門分化を防ぎ、それぞれの地域を通して長期的・全体史的に分析するのに恰好の方法である。従来の海域史研究においては十分ではなかった、こうした視座により、「地域」から社会を変容させていく動力を導き出し、現代東アジアの活力ある経済の拠点の一つとなっている浙江地域の社会的特質が生成される歴史的過程として位置づける。

(2)これまで東アジア海域史研究では、日本とかかわりのあった国々について、その国々のなかにも多様な「地域」が存在していることを十分に重視してこなかった。本研究では、方法面において、このような研究の歴史を見直すと同時に、中国史と日本史のメンバーで共同研究を進めることにより、「地域」からの視点をより徹底させ、国家中心の枠組みをさらに相対化させることをねらっている。また、これまでの海域交流史においてやはり十分に論じられてこなかった、「地域」の人々の心性の形成過程についても、多様な階層を視野に入れて分析する方法を採用しつつ研究を進める。

4. 研究成果

(1)中国の東南沿海地域の実地調査による研究を進め、研究成果を学界に対して公表した。中国の寧波市において、南宋時代に宰相を輩出した史氏一族の墓群について、現地の研究者とともに調査を行い、GPS装置を用いた墓群の位置確認を行った。また浙江省の温州から福建省福州・泉州・アモイなどを調査してまわり、港を取り巻く地域の特質を明らかにした。以上の研究活動の成果は、『歴史評論』の特集企画「中国地域社会史研究の展開」に論文を発表することで、学界に貢献した。

(2)中国寧波の宋代史氏一族の墓群調査によって、当該地域の家族・社会構造を解明した。GPSを活用した宋代史氏一族の東銭湖墓群の調査を行い、各墓と墓道の位置測定および各墓の構造分析を行った。この研究成果は、フィリピンで開催されたアジア歴史家国際協会第19回会議で発表し、国際的な研究貢献を行った。またこの実地調査に基づく研究成

果は、東方学会会員総会において開催されたシンポジウムでも発表された。

(3) 中国の浙江省舟山列島を中心に実地調査やヒアリングを実施するとともに、文献史料も丹念に収集・分析することによって、漁民の生活・文化等の特質を解明した。特に雍正帝の賤民解放令以来著名な被差別民＝九姓魚戸に着目し、彼らの分布地域、生態環境、生業、経済、文化、信仰などについて研究の成果をあげた。この成果の一端は、慶応大学東アジア研究所で開かれた国際的なワークショップで公表された。

(4) 浙江省東南沿海部から福建省東北沿海部にかけての地域、福建省から広東省にかけての沿海部の地域の実地調査を行うとともに、近代の新聞史料を詳細に分析することによって、中国東南沿海地域からの海域交流の実状を明らかにした。具体的には、寧波に焦点をあて、清代以来の同地を発航・着航する帆船航運の実態を明らかにした。それと同時に、この寧波を基点とする船舶航運を阻害していた海賊にも着目し、研究を進めた。寧波近海のみならず東シナ海を舞台に活動した海賊は8世紀頃から知られるが、この海賊の活動は20世紀初頭まで継続していることを、新聞史料の分析によって明らかにした。

(5) 浙江省・福建省等、中国の東南沿海地域の実地調査を行うとともに、日本の側からの海域交流という観点から地域調査を行った。具体的には九州、北陸、瀬戸内の沿海地域を調査対象とし、それぞれにおける港と周辺の留船・給水・船の修造・信仰に関わる施設や街区・景観・潮汐・風向など立地環境などの調査を実施し、港とそれをとりまく地域環境、大陸との交流の痕跡や記憶、航海信仰の海域交流と地域化に関する成果をあげた。こうした研究成果は、韓国木浦市や中国寧波大学で開催された国際シンポジウムなどで発表された。

(6) 戦国期から近世初期の九州や瀬戸内の沿海部地域を実地調査し、京都や堺の商人が巖島を経て南九州の港町に出向き、琉球経由で到来する外国産品を買い付け、畿内に持ち帰るといった海域から日本国内に向けての物流の実態を解明した。こうした日本を含む東アジア海域史の研究成果は、講演のかたちで一般社会にも公表された。

(7) 主に文献史料に基づき、明治期日本の政治文化の中国への伝播に関する研究成果をあげた。明治期に入って、いち早く西欧の国際秩序に順応し、国内法制の整備を進めていった日本で形成された諸制度は、やがて 19

世紀末から法学者や留学生を媒介として中国に伝播されていった。日本の外務省記録や日中両国の新聞・雑誌の丹念な分析によって得られた研究成果は、日本と中国の近代史研究の発展に寄与すべく著書として公刊された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 46 件)

- 1 岸田裕之、毛利元就と「張良か一巻之書」、龍谷大学論集、370 周年記念号、査読無、2010、1-37 頁
- 2 松浦章、清末山東半島與朝鮮半島の經濟交流、登州與海上絲綢之路、査読有、巻号無、2009、156-165 頁
- 3 松浦章、近世東アジア海域における中国船の漂着筆談記録、韓国学論集、査読有、45 号、2009、181-243 頁
- 4 松浦章、海難難民與当地官民的言語接触—從嘉慶年間漂到朝鮮、中国海難事例看周边文化交渉的多重性、從周边看中国、査読有、巻号無、2009、445-456 頁
- 5 松浦章、江戸時代唐船带来的中日文化交流、江戸時代日本漢学研究諸面向：思想文化篇、査読有、巻号無、2009、405-422 頁
- 6 松浦章、從海洋史的角度看前近代東亞海域間的交流、傳統中国研究集刊、査読有、6 輯、2009、165-188 頁
- 7 松浦章、日本に伝えられた康熙四七年度の浙江蜂起、東アジア文化環流、査読有、2 編 2 号、2009、60-74 頁
- 8 松浦章、清朝校訂康熙帝の訃報と東アジア世界、或問、査読有、16 号、2009、1-18 頁
- 9 松浦章、清朝帆船漂到日本之筆談史料、風起雲揚—首屆南京大学域外漢籍研究國際學術研討會論文集、査読有、巻号無、2009、414-425 頁
- 10 山崎岳、黄魚洄游在人間—從漁業、漁民的視角重新審視舟山歷史、舟山普陀與海域文化交流、査読無、巻号無、2009、77-90 頁
- 11 佐藤仁史、民国期江南の廟會組織と村落社会—吳江市における口述調査を中心に、査読無、近きに在りて、55 号、2009、57-70 頁
- 12 佐藤仁史、近現代江南的村落社会与民間信仰—以吳江市的口述調査為中心、江南与中外交流<復旦史学集刊>、3 輯、2009、69-82 頁
- 13 藤田明良、由普陀山伝承而来的日本的觀音—以福井県天妃媽祖觀音像為中心—、舟山普陀与東亞海域的文化交流、査読無、巻号無、2009、116-134 頁
- 14 岸田裕之、巖島神社の祭祀と毛利元就、日

- 本のことばと文化、査読無、巻号無、2009、570-585 頁
- 15 岡元司、疫病多発地帯としての南宋期両浙路—環境・医療・信仰と日宋交流—、東アジア海域交流史現地調査研究～地域・環境・心性～、査読有、3 号、2009、45-64 頁
- 16 松浦章、1920 年代初期の寧波近海の海盜、東アジア海域交流史現地調査研究～地域・環境・心性～、査読有、3 号、2009、150-169 頁
- 17 松浦章、清「展海令」施行と長崎唐館設置の関係、関西大学東西学術研究所紀要、査読無、41 号、2008、47-62 頁
- 18 松浦章、清の冊封琉球船を襲った海賊、南島史学、査読有、71 号、2008、20-38 頁
- 19 松浦章、十九世紀初期に朝鮮・中国へ漂着した難民との言語接触、朝鮮学報、査読有、208 号、2008、49-82 頁
- 20 松浦章、清代中国帆船による文化交渉と航運史料、東アジア環流、査読無、1 巻 2 号、2008、87-105 頁
- 21 松浦章、嘉靖十三年（一五三四）朝鮮使節が北京で邂逅した琉球使節、南島史学、査読有、72 号、2008、21-37 頁
- 22 松浦章、清代帆船航運と金門船員、関西大学文学論集、査読無、58 巻 3 号、2008、59-86 頁
- 23 鹿毛敏夫、戦国大名領国の国際性と海洋性、史学研究、査読有、260 号、2008、1-17 頁
- 24 松浦章、寧波商人虞洽卿による寧波・上海航路の開設、東アジア海域交流史現地調査研究～地域・環境・心性～、査読有、2 号、2007、61-86 頁
- 25 藤田明良、媽祖と日本の船玉信仰、東アジア海域交流史現地調査研究～地域・環境・心性～、査読有、2 号、2007、53-58 頁
- 26 藤田明良、19 世紀前半の朝鮮実学者李圭景の「鯨鱈辨證説」について、立教大学日本学研究所年報、査読無、6 号、2007、167-176 頁
- 27 曾田三郎、中華民国成立後の憲法案起草と地方制度改革構想、広島東洋史学報、査読無、12 号、2007、1-20 頁
- 28 曾田三郎、中華民国初年の地方制度案策定をめぐる国務院と総統府、広島大学大学院文学研究科論集、査読無、67 巻、2007、33-54 頁
- 29 松浦章、清国輪船招商局汽船の日本航行、関西大学東西学術研究所紀要、38 巻、査読無、2006、1-48 頁
- 30 松浦章、清代福建・沙埕船の長崎来航について、南島史学、査読有、67 号、2006、1-18 頁
- 31 松浦章、長崎唐船主から長崎華商へ、関西大学文学論集、56 巻 1 号、査読無、2006、19-47 頁
- 32 松浦章、近代上海市南和沙船航運業、近代中国的城市與農村、査読有、巻号無、2006、116-130 頁
- 33 松浦章、日治時代臺灣海峡の海賊、臺灣學研究通訊、1 号、査読有、2006、1-19 頁
- 34 松浦章、寧波出帆、寧波帰帆：清代寧波帆船の航跡、東アジア海域交流史現地調査研究～地域・環境・心性～、査読有、1 号、2006、63-94 頁
- 35 曾田三郎、清末民初的政治改革和日本早稻田大学、蘇州科技学院学報、23 巻 1 期、査読有、2006、109-113 頁
- 36 曾田三郎、中華民国憲法の起草と外国人顧問—有賀長雄を中心に—、近きに在りて、査読無、49 号、2006、3-16 頁
- 37 曾田三郎、山東鉄道をめぐる日中交渉と日本人主任雇用問題、日本の青島占領と山東の社会経済 1914-1922、査読無、巻号無、2006、83-113 頁
- 38 曾田三郎、清末の立憲改革と大隈重信の「封建」論—他国の政治改革をめぐる自国史認識—、「封建」・「郡県」再考—東アジア社会体制論の深層—、査読無、巻号無、2006、372-402 頁
- 39 藤田明良、中世東亜細亜の海港の立地と環境—中国と日本の島嶼部を中心に—、Sinan Underwater Relics and 14Century Asian Marie Trades (National Maritime Museum of Korea)、査読有、巻号無、2006、161-176 頁
- 40 藤田明良、文献史料からみた日本海交流と女真、東北アジア交流史研究、査読無、巻号無、2006、434-456 頁
- 41 岸田裕之、巖島神社の祭祀と大名権力、地域アカデミー、査読無、2005 年号、2006、47-53 頁
- 42 岸田裕之、「中国地域と対外関係」研究—その成果と方法、日本歴史、692 号、査読有、2006、23-25 頁
- 43 岡元司、周防から明州へ—木材はなぜ運ばれたか、義経から一豊へ、査読無、巻号無、2006、30-36 頁
- 44 太田出、多民族国家・清朝と関羽信仰、歴史と地理、査読有、589 号、2005、53-57 頁
- 45 太田出、中国地域社会史研究とフィールドワーク—近年における江南デルタ調査の成果と意義、歴史評論、査読有、663 号、2005、56-65 頁
- 46 岡元司、宋代における沿海周縁県の文化的成長—温州平陽県を事例として—、歴史評論、査読有、663 号、2005、2-11 頁
- [学会発表] (計 18 件)
- 1 佐藤仁史、従田野調查看近現代江南農村的“生活世界”：民間信仰與基層社会関係、

- 第4回日韓両地域中国近現代史研究者交流会、2010年1月9日、東京学芸大学
- 2 藤田明良、『天理大学所蔵大明国図』と『混一疆理歴代国都之図』—東アジア海域史の視角から、龍谷大学創立370周年記念国際シンポジウム「多元的視野で解明する至宝・混一疆理歴代国都之図」、2009年11月21日、龍谷大学
 - 3 山崎岳, Piratical Tributaries or Tributary Pirates?: A Comparative Analysis on the Diplomatic Relations of Portugal, Annam and Japan with the Ming Dynasty in the 16th Century, 国際ワークショップ「Maritime Trade in Eastern Asia from the 15th to 18th Centuries, 2009. 11. 2, Sociedade de Historia, Lisboa
 - 4 太田出・佐藤仁史、船上生活者からみる近現代中国の基層社会—浙江省建徳・桐廬九姓魚戸口述調査に即して、国際ワークショップ「中国基層社会におけるフィールドワークの現状と課題」、2009年10月24日、慶應義塾大学東アジア研究所
 - 5 岸田裕之、世界文化遺産 厳島神社、全国的障害福祉関係職員研究大会、2009年9月9日～11日、広島国際会議場
 - 6 山崎岳、海は誰のものか—明代の海権論を題材に、官僚制度班シンポジウム「東アジアにおける国際交流と政治権力の対応」、2009年7月5日、大阪市立大学
 - 7 藤田明良、分別共存の海 1700—1800、寧波プロジェクト・国際学術会議「世界史における東アジア地域」、2009年6月18日、復旦大学
 - 8 岡元司、疫病・環境と東アジア海域史—科研寧波プロジェクトの紹介を兼ねて—、第1回中国環境問題ワークショップ「環境との対話—東アジア海域世界と疫病—」、2008年12月21日、総合地球環境学研究所
 - 9 藤田明良、前近代の東アジアにおける海域交流とその重層性、韓・日海洋史—海洋文化共同WORKSHOP「韓日海洋史研究の最前線」、2008年11月27日、韓国木浦大学校
 - 10 岡元司、東アジア海域史をめぐる陸の環境、寧波プロジェクトシンポジウム「東アジア海域史研究の課題と新たな視角」、2008年11月15日、国民宿舎みやじま杜の宿
 - 11 曾田三郎、熊希齡内閣的<大政方針>と日本人的中国立憲国家論、“近代中国与日本”学術研討会、2008年9月28日、四川大学
 - 12 岡元司、宋元時代浙東沿海地域における基層社会の変容と信仰—地域空間の視点から—、社会経済史学会第77回全国大会、2008年9月27日、広島大学
 - 13 岡元司、寧波の文化・環境をめぐる空間の中長期的変化—寧波GISプロジェクトの現状と課題—、寧波プロジェクト・ワークショップ「焦点としての寧波・浙江—文化の多層性とその環境—」、2008年7月27日、東京大学
 - 14 鹿毛敏夫、日本戦国大名大友宗麟の遣明船、国際シンポジウム「東アジア文化交流—人物往来」、2008年7月27日、杭州湾大酒店
 - 15 松浦章、江戸時代日本漂着清人の図像、国際シンポジウム「東アジア文化交流—人物往来」、2008年7月26日、杭州湾大酒店
 - 16 山崎岳、王直は「倭寇」なのか、国際シンポジウム「東アジア文化交流—人物往来」、2008年7月26日、杭州湾大酒店
 - 17 岡元司、疫病多発地帯としての南宋期両浙路—人口・環境・日中交流、東方学会会員総会シンポジウム、2007年11月9日、日本教育会館
 - 18 曾田三郎、中華民国憲法草案の起草与省制改革論、北京大学与広島大学第一次中国近現代史学術交流会、2007年9月22日、北京大学
- 〔図書〕(計9件)
- 1 曾田三郎、思文閣出版、立憲国家中国への始動—明治憲政と近代中国—、2009年、388頁
 - 2 松浦章、関西大学出版部、清代内河水運史の研究、2009年、385頁
 - 3 松浦章、榕樹書林、東アジア海域の海賊と琉球、2008年、337頁
 - 4 佐藤仁史・太田出、汲古書院、中国農村信仰と生活—太湖流域社会史口述記録集、2008年、410頁
 - 5 松浦章、思文閣出版、江戸時代唐船による日中文化交流、2007年、460頁
 - 6 太田出・佐藤仁史、汲古書院、太湖流域社会の歴史学的研究、2007年、354頁
 - 7 松浦章、関西大学出版部、文政十年土佐漂着江南商船蔣元利資料、2006年、231頁
 - 8 平田茂樹・遠藤隆俊・岡元司、汲古書院、宋代社会の空間とコミュニケーション、2006年、410頁
 - 9 松浦章、清文堂出版社、近代日本中国台湾航路の研究、2005年、302頁
6. 研究組織
- (1) 研究代表者
岡元司 (OKA MOTOSHI)
広島大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：10290777
 - 曾田三郎 (SODA SABURO)
広島大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：40106779
(平成21年10月2日交替)
 - (2) 研究分担者
松浦章 (MATSUURA AKIRA)
関西大学・文学部・教授

研究者番号：70121895

山崎 岳 (YAMAZAKI TAKESHI)
京都大学・人文科学研究所・助教
研究者番号：60378883

太田 出 (OTA IZURU)
兵庫県立大学・経済学部・准教授
研究者番号：10314337

佐藤 仁史 (SATO YOSHIHUMI)
一橋大学・大学院社会学研究科・准教授
研究者番号：60335156

藤田 明良 (HUJITA AKIYOSHI)
天理大学・国際文化学部・教授
研究者番号：50306514

岸田 裕之 (KISHIDA HIROSHI)
龍谷大学・文学部・教授
研究者番号：10093545

(3)連携研究者

鹿毛 敏夫 (KAGE TOSHIO)
新浜工業高等専門学校・准教授
研究者番号：60413853

佐藤 亜聖 (SATO ASEI)
元興寺文化財研究所・研究員
研究者番号：40321947